

2年連続10度目の夏の甲子園出場を決め、壮行式に臨んだ八学光星の仲井宗基監督と選手たち。24日、八学光星高体育館



光星ナイン壮行会

大舞台での活躍誓う

第101回全国高校野球選手権青森大会で優勝し、2年連続10度目の夏の甲子園を決めた八学光星ナインが24日、全国高校総体やスリングの世界大会に出場する選手らと共に、同校体育館で開かれた壮行会に臨んだ。全校生徒約760人からエールを受け、大舞台での活躍を誓った。

光星の甲子園出場は昨夏、今春に続き3季連続。春夏通算で20度目となる。今夏は6試合で15本の本塁打を放ち、強打を武器にノースードから勝ち上がった。

光星ナインと、インターハイに出場する男子バスケットボール、レスリング、陸上、女子ソフトテニスの部員たちが入場すると、会場は拍手で沸いた。

壮行式では、野球部の仲

井宗基監督が「センバツ、春の県大会と初戦で敗退してしまった。令和最初の大会で、光星の名を響き渡らせられるようにしたい」とあいさつ。

武岡龍世主将は青森大会での声援に感謝しながら、「チーム一丸となって戦うので、甲子園でも応援してほしい」と意気込みを披露した。

小野崎龍一校長は、全国や世界大会に挑む生徒たちに「強豪にも臆せず、光星のプライドを見せてほしい」と激励。

生徒会長の堀合遼希さんは「試合をできることに感謝の気持ちを持って戦い抜いてほしい」とエールを送った。

ナインは25日に練習を再開、31日に大阪へ出発する。

（林泰輔）